

# 平成30年度全校集会講話（高志高校）

2018.12.21

みなさん、おはようございます。

最初に 12 月 10 日(月)から一週間にわたり、タイのカセサート大学附属学校の生徒が本校に滞在しました。ホームステイをはじめ、授業や部活動で温かく接していただいた皆さん、ありがとうございました。別れの際に涙を流した生徒もおり、彼らにとってこの旅行が大変印象深いものになったようでした。

12 日(水)本校図書館で開催された図書館講座では、40人の中学生・高校生の皆さんとともに作家の深緑野分さんのお話を聞きました。深緑野分さんの名前は、図書館返却棚の本を見て初めて知った名前です。つい先日、最新作『ベルリンは晴れているか』が直木賞候補になったとの報道がありました。

15 日(土)福井工業大学で開催された、全国高校生英語ディベート大会に行きました。論題は「日本国は、本人の意思による積極的安楽死を合法化すべきである。是か非か。」でした。私のわずかな英語力ではついて行くことができませんでした。

次に私事です。

青春 18 切符を使って JR 12 時間、それにバス 3 時間の計 15 時間の大遠征、日帰り旅行を敢行しました。景色もさることながら、時間帯によって変わってゆく乗客の皆さんを見ているのも面白いものです。新幹線に乗るとビジネスパーソンや観光客を見ることがあります。一方普通電車では人々の日常生活の一部を感じ取ることができます。思っています。時たま自分のように当てのない旅をしているのではないか、と思われる人もいます。同時に自分も同じように周囲から見られているかもしれません。

また中学校の同窓会があり、多くの級友と会うことができました。5人の仲間が既にこの世にはいません。参加者全員でこの年齢まで生きてきたことを讃え、喜びを共にしました。

最後に、「藤田嗣治（ふじた つぐはる）展」京都国立近代美術館に行きました。彼は画家・彫刻家で、1886 年生まれ、第二次世界大戦をはさんで 1968 年に亡くなりました。日

本生まれですが、後年フランスに帰化し、レオナール・フジタが洗礼名になっています。

私には絵画に対する特別の思いはありませんが、生きてきた時代ごとに作風が大きく変化していることは私にも分かりました。

当日はバスや電車を使って京都市内、京都府内をせわしなく駆け回りました。

師走です。

冬休みには、年末・年始、お正月があります。時代は変わっても、この時期は特別なもので、日本全国が浮かれています。自分自身の言動に注意するとともに、周りにいる仲間に対しても、気になる場合には声をかけてください。

それと、皆さんにはいろいろな予定があるのでしょうが、お家の人とゆっくり過ごしてください。私は例年どおり大晦日に除夜の鐘を突きにいきます。

皆さんにとって 2019 年がよい年ありますことを、祈念し、あいさつといたします。